

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係論		歯科衛生士学科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	武田 和代
授業の概要				
ケア・コミュニケーションに関する基本的な考え方を十分に理解し、目的や状況に応じて適切に表現するための知識を学び、歯科医療の現場において円滑なコミュニケーションをとることができるようにする。				
授業終了時の到達目標				
「知識」教室での学習や自己学習で知識を理解し、実際の場面を想定してどう対処すればいいかを考えることができる。 「技術」教室で演習したり、身近な人との関りの中で実際に意識しながら使って習得することができる。 「態度」具体的な表現や行動のもととなる考え方や発想の視点を学ぶことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】武田和代：歯科衛生士として11年の実務経験 これまでの臨床経験における患者とのかかわりや、歯科医院でのチーム医療のありかたを歯科衛生士としての立場から指導する。		
時間外に必要な学修				
プリントの復習				
回	テーマ	内容		
1	コミュニケーションとは	好感・信頼を高めるコミュニケーション 被援助者との関係を築くコミュニケーション		
2	被援助者との関係を築くコミュニケーション	好感・信頼を高めるコミュニケーション 敬意を伝えるコミュニケーション		
3	相手を受容し、共感するコミュニケーション 苦情やクレームに対応する	受容と共感のコミュニケーション 苦情・クレームの背景と心構え		
4	わかりやすく説明し、同意を確認するコミュニケーション	一方的に情報を伝えるのではなく、被援助者が納得してケアを受けられるように支援するコミュニケーション		
5	主体的な選択や行動を引き出すコミュニケーション	コーチング・コミュニケーション		
6	チームワークとコミュニケーション	チームの一員として仕事を進める 建設的でさわやかに対話する		
7	その人らしさを大切にするコミュニケーション	・視聴覚言語障害を持つ被援助者とのコミュニケーション ・認知症の被援助者とのコミュニケーション ・人生の最期を迎える被援助者とのコミュニケーション		
8	まとめ 確認テスト	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ケア・コミュニケーションテキスト ウィネット		期末試験 授業態度	90.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会学		歯科衛生士学科/3年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	西岡 浩一
授業の概要				
歯科衛生士として必要な、社会学、衛生行政、社会保険、統計学の基本的な知識を学習する。				
授業終了時の到達目標				
社会学、衛生行政、社会保険、統計学の基礎知識を理解する。 国家試験に相当する問題を解くことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		特別養護老人ホーム：生活相談員（1年）、訪問介護事業所：管理者（4年） 相談援助業務の実務経験を活かして社会保険、社会福祉の実際について講義する。		
時間外に必要な学修				
自ら国家試験の過去問題に取り組み、分からないことは調べて学習すること。				
回	テーマ	内容		
1	社会保険、社会保険	社会保険の役割と機能、社会保険給付費 社会保険の特徴と種類		
2	医療保険、高齢者医療確保法	医療保険制度の内容 高齢者医療確保法と特定健診		
3	介護保険	介護保険制度の成立 介護保険制度のしくみと給付		
4	衛生関係法	歯科衛生士法 医療法その他の法律		
5	保健医療の動向	健康状態と受療状況 医療関係者		
6	保健情報統計学	疫学の方法論 データの特性		
7	総合演習	過去問、模擬問題		
8	まとめ、試験	授業のまとめ 期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		出席率 授業態度 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢者・障がい者歯科学		歯科衛生士学科/3年	2022/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤本 希実子
授業の概要				
障がいがあるということはどのようなことかを理解し、心身障がい者・要介護高齢者の特徴や歯科的対応について学習する。 障がい者や要介護高齢者に対する口腔衛生管理および口腔機能向上訓練における歯科衛生士の役割について理解する。				
授業終了時の到達目標				
1. 障がい者・高齢者の概念が理解できる。 2. 障がい者・要介護高齢者の全身的特徴と歯科的特徴が理解できる。 3. 障がい者・高齢者における対応や口腔衛生管理の支援ができる。 4. 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として臨床現場で6年実務経験 介護支援専門員、介護職員として福祉現場で6年の実務経験 これまでの臨床や介護現場での場面を活かし、障がい者や高齢者歯科学の講義を行う		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて指導する				
回	テーマ	内 容		
1	障害の概念	1. 歯科医療におけるスペシャルニーズ 2. 障害の分類 3. 生活機能に特別な支援を必要とする人のQOL 4. ノーマライゼーションとバリアフリー 5. スペシャルニーズの発生とその受容 6. 障害のある人と医療・福祉制度の仕組み		
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	1. 精神発達・心理的発達と行動障害		
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	1. 運動障害(神経・筋系疾患)		
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	1. 感覚障害 2. 音声言語障害 3. 精神および行動の障害 4. その他 障害のある人への虐待		
5	障害者の歯科医療と行動調整	1. コミュニケーションの方法 2. 行動療法(行動変容法) 3. 体動のコントロール 4. 薬物的行動調整法		
6	健康支援と口腔衛生管理 安全管理	1. 専門的口腔ケア 2. 特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理 3. 医療安全管理体制		

回	テーマ	内 容		
7	摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	1. 摂食嚥下リハビリテーション 2. 摂食嚥下障害と口腔管理 3. 摂食嚥下障害と栄養管理 4. 摂食嚥下障害の評価法 5. 摂食機能療法		
8	地域における障害者歯科 確認テスト	1. 障害者歯科と地域医療連携 2. 障害者歯科と関連職種 3. 一次医療圏、二次医療圏、三次医療圏における障害者歯科 確認テスト		
9	高齢者を取りまく社会と環境	1. 高齢社会と健康 2. 高齢者にかかわる法制度 3. 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴		
10	加齢による身体的・精神的変化と疾患	1. 加齢に伴う身体的機能の変化 2. 高齢者の精神・心理的变化 3. 高齢者に多い全身疾患・障害		
11	加齢による身体的・精神的変化と疾患 高齢者の状態の把握	1. 高齢者に多い口腔疾患 2. 高齢者の生活機能の評価 3. 口腔機能低下症に対する指導 4. 高齢者と臨床検査		
12	高齢者の状態の把握 口腔のケア	1. 高齢者の栄養状態 2. 高齢者の薬剤服用 3. 高齢者に対する口腔のケア 4. 口腔ケアの手法とポイント		
13	摂食嚥下リハビリテーション	1. 摂食嚥下の評価と対応 2. 誤嚥性肺炎の予防のための訓練		
14	高齢者に関わる医療と介護 まとめ	1. 在宅医療とは 2. 在宅医療の目的と内容 3. 訪問診療と往診の違い 4. どのような患者をみているのか 5. 在宅医療制度の変遷 6. 在宅医療の保険のしくみ 7. 在宅歯科医療の現状		
15	確認テスト	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 障害者歯科		期末試験	90.0%	
最新歯科衛生士教本 高齢者歯科		出席率	10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科予防処置論Ⅲ		歯科衛生士学科/3年	2022/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	井口 和美

授業の概要

人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識・技術を習得する。
 歯周疾患予防および治療のながれを理解し検査、SRP、メンテナンス、SPTの総合演習を行う。
 歯科衛生過程を理解し、情報収集 アセスメントなどを行い指導計画の立案を行う。

授業終了時の到達目標

1. これまで学習した小窩裂溝填塞法について理解し総合演習が行える。
2. キュレットスケーラーの操作法や使用目的を理解し、総合演習が行える。
3. 歯科衛生過程の学習をもとに、患者情報、検査データを読み取り歯科衛生診断が行える。
4. 歯周疾患治療における、メンテナンス、SPTの違いを理解し説明することができる。

実務経験有無

実務経験内容

有

【実務経験有】井口和美
 歯科衛生士としての、10年間の業務経験をもとに臨床における歯科衛生士業務の知識・技術を学生に教授する

時間外に必要な学修

授業ごとに復習を行い、自宅での学習習慣をつける。

回	テーマ	内容
1~2	歯科衛生過程	歯科衛生課衛の各構成要素 1 歯科衛生アセスメント 1) 情報収集 2) 情報の種類 3) 情報の解釈・分析 4) 歯科衛生士診断
3	キュレットスケーラーⅡ 実技演習(ファントム) ・グレーシータイプ	キュレットスケーラー操作復習(ファントム使用) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧
4~5	キュレットスケーラー 改良型スケーラーの特徴	グレーシータイプ 改良型特徴と操作の方法 ・アフターファイブ ・ミニファイブ 分岐部での操作方法とスケーラー番号
6~16	キュレットスケーラーⅡ 相互演習 ・グレーシータイプ	総合実習 ・33番歯~43番歯(唇側・舌側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧 ・44番歯~47番歯(頬側・舌側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧
17	総合演習	1) グレーシータイプ実習 2) 超音波スケーラー 3) PMTC

回	テ ー マ	内 容
18～ 19	小窩裂溝填塞Ⅲ (演習)	1) 小窩裂溝填塞ⅠⅡ 復習 2) 小窩裂溝填塞 相互実習 ラバーダム防湿 光重合型小窩裂溝填塞
20～ 21	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験	う蝕活動性試験の意義・条件・目的 評価方法 判定と分析
22～ 23	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験	1) RDテスト 2) カリオスタット
24～ 25	う蝕予防計画	1) リスクに合わせた計画 2) グループワーク
26	歯周病 事例 グループワーク	1) 検査結果や口腔内所見をもとにアセスメントを行う
27	歯周病 事例 グループワーク	1) 症例の歯科衛生診断
28～ 29	歯科予防処置論 (国試問題)	過去問題プリント 1) 歯周組織 2) 歯肉炎・歯周炎
30～ 31	歯科予防処置論 (国試問題)	過去問題プリント 1) 付着物・沈着物
32～ 33	歯科予防処置論 (国試問題)	過去問題プリント 1) 手用スクレーパー ポジショニング
34～ 35	歯科予防処置論 (国試問題)	過去問題プリント 1) 超音波スクレーパー 2) エアスクレーパー

回	テーマ	内 容		
36~ 37	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯周基本検査 2) アタッチメントレベル		
38	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 付着歯肉幅		
39	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯肉縁上歯石 2) 歯肉縁下歯石		
40	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) プラーク形成過程 2) グラム陰性菌 陽性菌		
41	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) シャーピング		
42	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯面研磨		
43~ 44	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 全身疾患と歯周病リスク		
45	確認試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版 一般財団法人 全国歯科衛生士教育協議 会 監修		出席率 授業態度 確認テスト 期末試験	10.0% 10.0% 10.0% 70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅲ		歯科衛生士学科/3年	2022/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	藤本 希実子
授業の概要				
歯科保健指導についての全般的な知識習得と専門的分野のエキスパートを目指す。 歯科保健指導分野において国家試験対策を行う。				
授業終了時の到達目標				
協同でのチーム医療、対人コミュニケーションについて理解ができており、個人から集団までの指導についての応用ができる。 歯科衛生士国家試験合格。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として臨床現場で6年の実務経験 介護支援専門員、介護職員として福祉現場で6年の実務経験 これまでの臨床の場や介護現場での場面を活かし歯科保健指導の実践に役立てる		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テーマ	内 容		
1~5	活動の場の見学準備	1. 保健センター 2. 発達障害児施設 3. 病院・介護施設		
6	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素		
7	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素		
8	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素		
9	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素		
10	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素		
11	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素		
12	<国家試験対策> Ⅰ 総論	1. 概要 2. 基礎知識		
13	Ⅰ 総論	1. 概要 2. 基礎知識		
14	Ⅱ 情報収集	1. 個人 2. 集団・組織・地域		
15	Ⅱ 情報収集	1. 個人 2. 集団・組織・地域		
16	Ⅱ 情報収集	1. 個人 2. 集団・組織・地域		

回	テ ー マ	内 容
17	Ⅲ口腔衛生管理	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
18	Ⅲ口腔衛生管理	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
19	Ⅲ口腔衛生管理	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法

回	テ ー マ	内 容
20	Ⅲ口腔衛生管理	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
21	Ⅳ生活習慣指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点
22	Ⅳ生活習慣指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点
23	Ⅴ食生活指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
24	Ⅴ食生活指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
25	Ⅴ食生活指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
26	Ⅵ口腔機能管理	1. 基礎知識 2. 評価 3. 機能障害別の指導法 4. 対象別の指導法
27	Ⅵ口腔機能管理	1. 基礎知識 2. 評価 3. 機能障害別の指導法 4. 対象別の指導法
28	Ⅶ健康教育	1. 健康教育の対象 2. 健康教育の要点
29	Ⅶ健康教育	1. 健康教育の対象 2. 健康教育の要点
30	Ⅶ健康教育	1. 健康教育の対象 2. 健康教育の要点
31	確認テスト	確認テスト
32	確認テスト解説	確認テスト解説
33	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説
34	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説
35	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説
36	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説
37	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説
38	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説

回	テ　　マ	内　　　容
39	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説

回	テ ー マ	内 容		
40	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
41	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
42	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
43	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
44	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
45	確認テスト	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅲ		歯科衛生士学科/3年	2022/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	四宮 直子
授業の概要				
<p>歯科診療における基礎知識(歯科領域に必要な臨床検査、画像検査)について 歯科衛生士がかかわる医科疾患患者について(主な全身疾患とその対応、周術期における歯科診療の補助、歯科訪問診療における対応) 1・2年次に学習した歯科診療の補助の知識と技術の再確認 国家試験対策</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>臨床検査の目的と各種検査法について説明できる。 バイタルサインの測定と評価を実施できる。 画像検査法とその補助について説明できる。 口腔内写真の撮影と管理を実施できる。 主な全身疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。 周術期における口腔機能管理の概要を述べるができる。 周術期の病態とその治療法を説明できる。 周術期の歯科治療時の役割を説明できる。 手術における術前、術中、術後の歯科衛生士の対応を説明できる。 歯科訪問診療の概要を述べるができる。 必要な器材・薬剤と治療の流れを説明できる。 診療時の適切な患者対応を説明できる。 訪問診療における感染予防対策を説明できる。 訪問診療における口腔健康管理を説明できる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における患者との関わりやチーム医療の場面を教材として、社会のニーズに応える意識づけと歯科診療の補助の知識や技能を指導する。</p>		
時間外に必要な学修				
<p>次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。</p>				
回	テーマ	内容		
1~4	歯科領域に必要な臨床検査	<ol style="list-style-type: none"> 臨床検査の補助の目的、役割 検査の準備と患者への説明 検査の種類 <ol style="list-style-type: none"> 生体検査 検体検査 口腔領域の検査 		
5~7	画像検査	<ol style="list-style-type: none"> エックス線写真撮影 <ol style="list-style-type: none"> 口内法エックス線撮影 パノラマエックス線撮影 頭部エックス線規格撮影 歯科用コーンビームCT (CBCT) 撮影 口腔内写真撮影 画像の管理 		
8	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	<p>代謝・内分泌疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 糖尿病 骨粗鬆症 甲状腺疾患 		

回	テーマ	内 容
9	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	消化器疾患 1) 胃・食道逆流症 (GERD) 2) 胃炎と胃がん 3) 胃潰瘍・十二指腸潰瘍 4) 肝炎・肝硬変
10	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	循環器疾患 1) 心疾患・不整脈 2) 高血圧・低血圧
11	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	血液疾患 1) 貧血 2) 白血病 3) 血友病
12	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	呼吸器疾患 1) 肺炎・誤嚥性肺炎・呼吸器感染症 2) 気管支喘息 3) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 4) 肺結核 5) 睡眠時無呼吸症候群 (SAS)
13	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	腎・泌尿器疾患 1) 腎疾患 2) 前立腺疾患
14	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	免疫・膠原病 1) アレルギー 2) 膠原病 (シェーグレン症候群を除く) 3) シェーグレン症候群 4) アトピー性皮膚炎
15	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	感染症 1) ウイルス性肝炎 (急性、慢性の違い) 2) カンジダ症 3) AIDS
16	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	神経系疾患 1) 脳血管疾患 2) てんかん 3) 認知症 4) 神経難病
17	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	精神疾患 1) 心身症・神経症 2) うつ病 3) 統合失調症 4) 発達障害
18	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	がん 1) がん 2) 口腔がん
19	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	産科・婦人科疾患 1) 妊娠による変化 2) 更年期障害

回	テ ー マ	内 容
20～ 21	周術期における口腔機能管理	周術期口腔機能管理の概要 1) 対象となる患者 2) 周術期口腔機能管理の流れ 3) 周術期における医療連携 病態の把握 1) 化学療法・放射線治療 2) 全身麻酔下で行う悪性腫瘍患者における外科療法 治療時の対応 1) 周術期の歯科治療への対応 2) 専門的口腔衛生処置の実施

回	テーマ	内容		
22～ 23	歯科訪問診療補助	歯科訪問の診療補助の概要 1) 歯科訪問診療の概要 2) 歯科訪問診療の対象者 3) 歯科訪問診療の内容 歯科訪問診療の流れ 1) 歯科訪問診療の基本的な流れ 2) ポータブルの診療セット 3) 診療に必要な器材 4) 歯科訪問診療における感染予防対策 5) 訪問先とのコミュニケーション		
24～ 25	国家試験対策	歯科診療で扱う歯科材料		
26～ 27	国家試験対策	医療安全と感染予防		
28～ 29	国家試験対策	歯科診療補助の概念 歯科診療における基礎知識		
30～ 40	国家試験対策	歯科臨床と診療補助		
41～ 45	国家試験対策(総合)	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 2版(医歯薬出版)	歯科診療補助論 第2版	出席率	5.0%	
最新歯科衛生士教本 2版(医歯薬出版)	歯科材料(医歯薬出版)	確認テスト	5.0%	
最新歯科衛生士教本 2版(医歯薬出版)	歯科機器(医歯薬出版)	期末試験	90.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
テーマ研究論		歯科衛生士学科/3年	2022/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	武田 和代

授業の概要

口腔保健の範囲の中から、自分自身で興味のある問題または必要と思われる分野を見出し研究のテーマを設定する。

授業終了時の到達目標

自分自身で興味のある分野をもう少し掘り下げて自ら学習することにより、卒業後もその分野において興味をもち専門職として従事することができる。

実務経験有無

実務経験内容

有

【武田和代】：歯科衛生士として11年の勤務経験。これまでの臨床経験における患者とのかかわりや、歯科医院でのチーム医療のありかたを歯科衛生士としての立場から指導する。

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	研究テーマを考える	自分自身で興味のある問題、または必要と思われる分野を見出し、研究のテーマ案を考える。いかに研究テーマを見出すか。
2	テーマを絞り込む 最終的にテーマを決定する	前回、テーマ案を考えた中から絞り込む
3	研究の準備	研究に役立つ文献の検索
4	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用
5	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用
6	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用
7	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用
8	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用
9	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用
10	プレゼンテーション資料の作成・原稿の準備 プレゼンテーションの仕方	パワーポイントの使用
11	プレゼンテーション資料の作成・原稿の準備 プレゼンテーションの仕方	パワーポイントの使用

回	テ ー マ	内 容		
12	プレゼンテーション資料の作成・原稿の準備 プレゼンテーションの仕方	パワーポイントの使用		
13	プレゼンテーション資料の作成・原稿の準備 プレゼンテーションの仕方	パワーポイントの使用		
14	プレゼンテーション	パワーポイントの使用		
15	プレゼンテーション	パワーポイントの使用		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書は使用せず、教科書から抜粋したプリントを使用して学ぶ		課題・レポート 出席率 授業態度	60.0% 20.0% 20.0%	次回の授業内容を踏まえて予習する。